

編集後記

本誌の創刊号を発行してからまもなく1年になろうとしています。名古屋アメリカ文学・文化研究会では、この間、ほぼ2ヶ月に1回のペースで研究会を開催してきました。博士号取得を目指す大学院生や修了生にとって、また、すでに大学等で研究・教育に従事している研究者にとって、自分の研究成果を人前で発表し、他人の意見を聞くことは、論文の進展のためにも、また、研究内容を深め、それを様々な視点から見つめ直すためにも有意義であろうと考えます。

個別の研究会に加え、今年度もまた、3月16日(土)、17日(日)に、国際シンポジウム *Race and Ethnicity in American Literature and Culture: A Reconsideration* を開催しました。この国際シンポジウムは、基調講演者として、南カリフォルニア大学の Viet Thanh Nguyen 氏と華中師範大学の Luo Liangong 氏をお迎えし、アメリカ文学・文化を研究する名古屋大学と近隣の大学の大学院生・研究者、そして、東京や岡山などで教鞭を執る大学教員が集まって、人種・エスニシティーに焦点を充てたアメリカ文学・文化の研究について再検討を試みたものです。

さて、『名古屋アメリカ文学・文化』第2号には、特別寄稿論文1、論文2、書評1を掲載しました。特別寄稿論文は、昨年3月のシンポジウムで基調講演をされ、また、参加者の報告について、様々な角度からコメントして下さった Paula Rabinowitz 氏(ミネソタ大学教授)によるもので、内容も昨年のシンポジウムでの基調講演に基づくものです。論文寄稿の依頼に快く答えて下さったラビノウイツ教授に、あらためて感謝します。

本誌のPDF版は名古屋アメリカ文学・文化研究会のウェブサイトに掲載します。URLは <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~nagahata/nu-alcs/n-alc/2.pdf> です。

(長畑明利)